

# サラダ品目で生産増

## 「食の外外部化」進展も追い風か

農水省は、2012年産・地域特産野菜の生産状況をまとめた（左表）。都道府県において生産される多様な野菜の生産状況等を把握することを目的とし、隔年で調査している。

それによると、41品目中作付面積では25品目、収穫量では21品目で前回調査（10年）に比べて減少。作付面積では、ラディッシュ、ツルムラサキ、ウド、クワイで3割以上減少。一方、ズッキーニ、クレソンでは3割

このほかトウガン、パプリカ、芽キャベツなども増加した。収穫量では、アサツキ、エシャレット、葉シヨウガ、山ゴボウ、クワイなどで大きく減少。一方、パプリカでは5割増、ズッキーニとクレソンは4割増となった。このほかスナップエンドウや非結球レタス、ルッコラ、マッシュルームなども増加している。とくに、ズッキーニ、パプリカ、スナップエンドウでは統計開始以降増加傾向にあり、非結球レタスも過去最高の収穫量となった。これらの品目はサラダの材料となるものが多く、食生活の変化がうかがえる。また、ズッキーニやパプリカ、非結球レタスは外食・中食でも使用され、こうした需要も作付面積・収穫量増加の押し

12年産の作付面積・収穫量・対10年産増減率

	作付面積 (ha)	対10年 産増減率 (%)	収穫量 (トン)	対10年 産増減率 (%)
アサツキ	58	▲ 7.9	318	▲ 44.9
ウド	267	▲ 34.2	3,111	▲ 10.6
(露地盛土)	138	16.0	404	▲ 31.9
(伏込み) [千㎡]	1,291	▲ 55.0	2,707	▲ 6.2
ウルイ	81	5.2	247	0.0
エシャレット	99	▲ 18.2	858	▲ 34.2
オクラ	799	6.7	12,295	2.4
カイワレダイコン	...	...	2,839	▲ 21.7
カンピョウ	152	100.0	388	39.6
クレソン	47	30.6	952	41.0
クワイ	34	▲ 32.0	333	▲ 26.2
オオバ	709	2.6	9,004	▲ 0.1
食用ギク	127	▲ 6.6	1,125	▲ 0.6
食用ユリ	94	▲ 13.8	1,286	▲ 19.5
シロウリ	88	▲ 6.4	4,840	▲ 3.3
ズッキーニ	384	32.4	6,126	42.7
スナップエンドウ	441	9.2	5,698	17.8
セリ	96	0.0	1,326	▲ 15.4
タアサイ	28	▲ 3.4	763	16.7
タデ	16	▲ 20.0	204	2.5
ツケナ (ミズナを除く)	2,480	▲ 0.7	54,086	▲ 1.5
ツルムラサキ	56	▲ 38.5	1,306	▲ 14.1
トウガラシ (辛味)	54	▲ 8.5	323	5.9
トウガン	264	16.8	11,515	9.9
ナバナ	1,085	▲ 2.2	7,701	2.6
(主に花を食するもの)	802	6.2	5,222	10.4
(主に葉茎を食するもの)	283	▲ 20.1	2,479	▲ 10.8
ニガウリ	901	▲ 3.8	22,361	▲ 4.0
パクチョイ	23	4.5	310	3.7
葉シヨウガ	62	▲ 24.4	1,630	▲ 29.1
パセリ	240	9.6	4,604	25.7
花シヨウガ	437	▲ 16.9	5,660	3.2
パプリカ	71	12.7	3,996	50.1
非結球レタス	2,893	10.3	56,492	17.0
マッシュルーム [千㎡]	231	12.7	5,208	15.8
実エンドウ	531	▲ 17.4	4,427	▲ 12.5
ミニカボチャ	53	▲ 7.0	417	▲ 21.5
芽キャベツ	28	12.0	304	4.5
モロヘイヤ	121	▲ 5.5	1,539	▲ 7.2
山ゴボウ (栽培)	44	▲ 13.7	402	▲ 27.7
ラッキョウ	856	▲ 5.0	11,696	▲ 5.4
ラディッシュ	44	▲ 39.7	755	5.0
ルッコラ	42	▲ 6.7	313	16.4
ワケギ	109	▲ 23.2	1,395	▲ 29.2
ワサビダイコン	65	▲ 19.8	930	▲ 17.8
	...	...	249,083	3.5

41品目中で「出世頭」のひとつがズッキーニ。作付面積は1990年に45畝であったが、04年には111畝、12年は384畝になった。収穫量は90年900ト、04年2325ト、12年6126ト。都道府県別にみると、長野県が作付面積、収穫量、出荷量ともにトップとなっている。

### 主な品目の作付け・生産上位県

都道府県	作付面積 (ha)	収穫量 (トン)	出荷量 (トン)
■ズッキーニ			
長野県	168	2,243	2,141
宮崎県	78	1,605	1,494
群馬県	34	796	767
■パプリカ			
宮城県	7	932	916
茨城県	8	556	516
熊本県	6	380	362
■非結球レタス			
長野県	1,164	23,914	23,685
福岡県	424	8,099	8,049
茨城県	453	8,009	7,766
■スナップエンドウ			
鹿児島県	212	3,134	2,882
熊本県	6	590	528
愛知県	1	553	551
■アサツキ			
山形県	25	89	87
群馬県	3	56	56
福島県	10	56	55
■エシャレット			
茨城県	68	546	496
静岡県	27	286	286
千葉県	2	18	18

出品することになった。また、レストランからは「ピンポン玉程度の大きさの丸ズッキーニ」とのオーダーもある。ズッキーニは可能性のある品目」と話す。反面、出荷の増加による値崩れに懸念する。

パプリカは、98年には23畝だった作付面積が12年には71畝に、収穫量は1406トから3996トに増加した。もちろん国内の生産量が増えてきたとはいえ、また輸入がメイン。昨年の輸入量は3万3771トと2000年から3倍以上増加していることから見ても、

ニースの高さがうかがえる。国産の増産が期待される品目のひとつといえそう。スナップエンドウは鹿児島県を中心に栽培されている。98年には50畝だった作付面積が12年には441畝に増加。収穫量も394トから5698トへと大幅に増加している。また、非結球レタスでは作付面積が2000年頃から2600畝、2900畝程度で推移。収穫量では84年の3万2600トから2000年に5万トを突破し、12年は過去最高となった。

一方、大きく減少した品目も。アサツキの収穫量は8年に3350トとピークになったものの、12年には10分の1に減少。出荷作業に手間のかかるエシャレットの収穫量は88年、04年まで2000ト台で推移していたが、12年は858トに落ち込んでいる。